



## ふるさととは二つ

坂東 久平

私は、京都の太秦で生まれました。22年間をここで過ごし、就職して北九州の黒崎（北九州市八幡西区）に行き、ここで18年間を過ごしました。京都の方が長いのですが、人生の密度では黒崎が上回ります。今でもOB会などで黒崎に行きますが、関門トンネルを出て景色を見ると、「帰って来た」と感じます。

さて、一つ目のふるさと「太秦」は、当時、松竹、日活、東宝などの映画会社が時代劇映画の撮影所を置いていました。中学校の通学路には片岡千恵蔵の家がありましたが、千恵蔵に会ったことはありません。

私も映画に出演したことがあります。とはいえ、「きけわだつみのこえ」（1950 東横映画）のエキストラで、学童が教室から飛び出して行くシーンでした。（試写を見ましたが自分の姿を確認できませんでした）

昨年の歴文研修会で太秦に行きましたが、この地は秦氏の根拠地で、秦氏の氏寺・広隆寺があり、国宝の木造弥勒菩薩半跏像（宝冠弥勒）で有名です。



広隆寺のすぐ近くに太秦小学校があり、校歌の一節に「文化の源、太秦の・・・」とありましたが、その時は意味が分からず歌っていたようです。

木嶋神社（蚕ノ社）の元糺の池もとただすに足を浸けて、病

気に罹らないよう願ったものです。

蜂ヶ岡中学校の校区には、嵯峨野、嵐山があり、渡月橋の下流で泳いだり、上流でボートに乗ったりしたことが、懐かしく思い出されます。

二つ目のふるさととは、「黒崎」です。昭和35年（1969年）に同期の仲間と共に工場のある黒崎に向かいました。ちょうど5市合併直前の八幡市で、黒崎駅は随分の田舎で、急行は止まらず、次の折尾駅で降りてバスが迎えに来ているような状態でした。

駅前には、屋台が並び治安も良くない町で、先輩から、ここから先へは行くなと言われる場所がたくさんあったと記憶しています。

その後、町の発展は目覚ましく、デパートも開業し、商店街も活況を呈し、いつか屋台の群もなくなって、JR黒崎駅も博多、小倉に次いで乗降客数が多い駅となりました。

若松と戸畑を結ぶ若戸大橋（627m）が完成し、日本における長大橋の始まりであり、建設当時は東洋一の吊り橋でした。



黒崎での18年間は、人生の中で最も密度の高いものでした。私生活では、結婚をして、3人の子宝に恵まれ、子供たちも自然豊かな地で伸び伸びと育ってくれたと思います。

その後、転勤などで西宮、奈良へと住処が変わり、子供たちには申し訳ない事でした。

仕事は充実し、エコノミックアニマル振りの残業の連続で、家庭サービスは充分ではなかったかと反省しています。

黒崎には、公害で全国的に有名になった洞海湾があり、船が入港すると船底についていた貝が死んで取れてしまうほどお延が激しかったそうです。今は廃水処理が進歩して、海は綺麗になり、車エビの養殖ができるほどになっています。

八幡には、皿倉山（622m）があり、頂上から眺める製鉄所の7色の煙が有名でした。

転勤で、横浜に5年ほどいましたが、やはり関東にはなじみませんでした。ふるさととは良いものです、二つもあるなんて、私は幸せ者ですね。